



南の目指す生涯学習社会

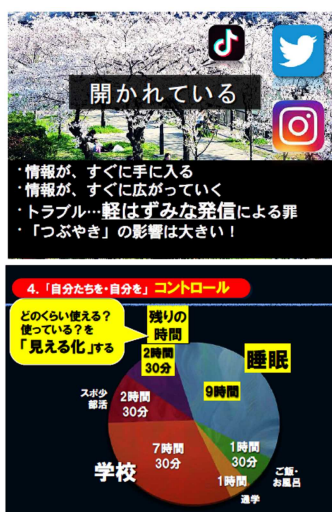
～みんなが元気に みんなが幸せに～

出前講座がスタートしました

毎年県南地区20校あまりの小・中学校で活用していただいている、「あきた県庁出前講座No.162『大人が支える！インターネットセーフティ』」が今年度もスタートしました。

初回は、仙北市立桧木内小学校の3～6年生を対象にした講座でした。子どもたちは、インターネットのメリットやデメリットについて自分の考えを発表したり、ネットやゲーム利用が要因となる実際のトラブルを真剣に聞いたりして、意欲的に学習してくれました。

「ネットやゲームの長時間利用が心配」「家庭で約束を決めてほしいけど、具体的な情報や手立てを知りたい」など、ご要望にできるだけ対応しますので、是非ご連絡ください。



【上：サービスの特徴】
【下：24時間の見える化】

県南地区第1回 放課後支援者研修会 を開催します

子どもたちの放課後の生活を支えてくださっている方々のための研修会です。

〔期日・時間〕

○令和元年6月11日(火)

○午前9：20～正午

〔会場〕

○横手市浅舞公民館

〔申込・問合せ〕

○南教育事務所

社会教育班まで

TEL 0182-32-1101

アドバイザーコラム：学校・家庭・地域の協働1

協働の場づくり

最近、「協働」という言葉をいろいろなところで目にするようになりました。

現在、南教育事務所管内の市町村では、県の「学校・家庭・地域連携総合推進事業」を受けて、「地域学校協働活動」に取り組んでいます。例えば、子どもたちの学習や学校行事に保護者や地域住民等が参画する「協働活動」や、長期休業中に公民館等で子どもたちに体験活動を提供する「あきたわくわく未来ゼミ」などです。

また、来年度から小・中学校で順次全面实施となる新学習指導要領の前文には、「社会に開かれた教育課程」の実現を、社会との連携及び協働により図っていくということが明記されています。

協働は、文字通り「力を合わせて働く」ことを意味しますが、そこには、ともに汗を流すことによって共通の目標を達成するという願いが込められているように思います。

そう考えると、学校と家庭・地域の関係を協働

社会教育アドバイザー 小笠原 重夫

という言葉で表すことは、とても意味のあることだと考えられます。

学校は、地域の人たちから学んだり、サポートを受けたりするだけでなく、地域課題の解決のために何か役立つことをする…。

今、学校には、教育課程を介して子どもたち自身を地域課題に向き合わせ、「自分だったらどうするか」を考えられる子どもたちを育成することが求められています。

学校が、地域と目標やビジョンを共有しながら、学校課題の解決にとどまらず、地域課題を解決するための「協働の場」になることができたなら、学校は「地域づくりの核」にもなり得るのではないでしょうか。

今年度は、「社会教育による学校教育へのアプローチ」を意識し、「学校・家庭・地域の協働」をテーマに隔月で連載する予定です。